

# 経済マンスリー [原油]

## 膠着状態の原油価格を動かす今後の材料

原油価格（WTI 期近物）は 3 月 17 日に 1 バレル 43.46 ドルと 6 年振りの安値をつけた後、中東地域での地政学リスクの高まりや米エネルギー情報局（EIA）による米国のシェールオイル生産減少見通し、米国の原油在庫減少等を受けて上昇傾向をたどり、5 月 5 日に同 60.4 ドルに上昇した（第 1 図）。その後は同 60 ドル挟みで推移している。

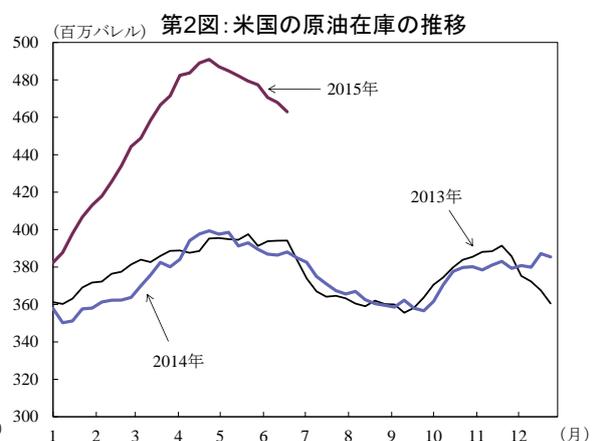
5 月以降、原油価格を大きく押し上げる材料が少ないため、膠着状態が続いている。6 月 9 日発表の EIA の「Drilling Productivity Report」では、7 月の米シェールオイル生産量は 3 ヶ月連続で減少する見通しが示されたが、想定内の内容であり、原油価格を大きく上昇させるほどではなかった。また、原油生産量の増加と製油所の保守点検を背景に過去最高水準に積み上がっていた米国の原油在庫は 5 月以降減少に転じているが（第 2 図）、夏場の需要期であるドライブ・シーズン（5 月末～9 月初）中の動きと捉えられており、在庫水準は依然高い。

イランと欧米など主要 6 カ国の核協議については、最終合意期限は 6 月 30 日だったが、7 月 7 日に延長されることとなった。仮に合意した場合は経済制裁が解除される。解除とイランの原油輸出再開には時間を要する見込みだが、世界的な供給拡大につながることで既に市場で織り込まれ、原油価格の下押し要因となっている。

目先は、供給側の動きに大きな変化はないとみられ、需要側の材料や為替要因が原油価格に影響を与える展開となろう。7 月 15 日発表予定の中国 4-6 月期 GDP 統計で中国の景気減速感があらためて意識されれば、原油価格は軟化しよう。また、ギリシャ問題や米国利上げ観測を背景に、基調としてユーロ安・米ドル高が続くとみられる。ドル建てで取引される原油は、ドル高になると他通貨からみた割高感により売りが膨らみやすい。こうした為替要因に原油価格が左右される局面も想定される。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(資料) 米エネルギー情報局資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。